

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	藤原 悟
論文担当者	主査 塚本 蔵
	副査 朝倉 正紀
	副査 平田 淳一
学位論文名	Characteristics and prognostic impact of unsuccessful recanalization after endovascular therapy for acute ischemic stroke (緊急血管内治療における再開通不成功の臨床的特徴と転帰に及ぼす影響)
論文審査の結果の要旨	
<p>緊急血管内治療(EVT)は急性期脳梗塞に対する重要な治療法だが、不成功例では、逆に患者の転帰に悪影響を及ぼす懸念がある。そこで本研究は、EVTの対象となる脳主幹動脈閉塞症(LVO)の全国規模レジストリ(RESCUE-JAPAN Registry 2)を活用して、EVT不成功例の特徴を調べた。2014年10月から2016年9月までの2年間に、日本国内46施設に入院した発症24時間以内のLVO症例(最終解析対象2,408例)を、EVT成功群(1,093例)、EVT不成功群(188例)、EVT未実施(内科治療単独)群(1,127例)の3群に分類し、解析を行った。まず、多変量ロジスティック回帰モデルでEVT不成功のリスク因子を検討した結果、発症前 modified Rankin Scale (mRS, 患者の機能的独立度を0 [無症状]から6 [死亡]で表す評価尺度) ≥ 2 (adjusted OR [aOR] 1.63, 95% confidential interval [CI] 1.13–2.35)と、中小血管閉塞 (aOR 1.71, 95% CI 1.20–2.45)が、再開通不成功と関連する因子として見出された。次に、EVT不成功が転帰にどのような影響を及ぼすかを、EVT不成功群と未実施群のプロペンシティスコアマッチング後の各群147例で行った。未実施群と比較して、EVT不成功群では発症90日後のmRS 0–2の達成が有意に低く(23% vs. 34%; OR 0.58, 95% CI 0.35–0.98)、死亡が多く(16% vs. 6.8%; OR 2.54, 95% CI 1.16–5.55)、また発症72時間以内の症候性頭蓋内出血が多かった(5.4% vs. 0.7%; OR 8.40, 95% CI 1.04–68.1)。</p> <p>本研究はEVTを受けた症例の約15%が再開通不成功に終わり、再開通不成功が中小血管閉塞等と関連し、またEVT未実施症例と比較して再開通不成功例では90日後の転帰が不良で、出血性合併症も多いことを明らかにした。これまで再開通不成功例の転帰を内科治療単独例と比較した研究は少なく、実際の臨床現場を反映した大規模レジストリを用いて検討することで貴重なエビデンスを提供することができたことから、学位授与に値すると判断した。</p>	